Risk Solution
News Today
No.24 2011/5/2

【ニュースに関するお問い合わせ】
銀泉リスクソリューションズ㈱　ソリューション営業第１部
担当：後藤（ごとう）E-mail/ solutions@ginsen-risk.com
〒102-0074　東京都千代田区九段南3-9-14
TEL03-5226-2301　FAX03-5226-2609
〈メールマガジンでもお送りしています。ご希望の方は上記まで〉

東日本大震災で被災された皆さまに、謹んでお見舞い申し上げます。

1日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

大震災から1ヶ月半が経ったが、産業界の事業中断が深刻な状況のまま推移しており、日本経済だけでなく世界経済にも相当の影響を及ぼすことが懸念されている。そこでつくづく考えることがある。日本列島は誕生以来幾多の大地震に襲われてきた地震列島であり、地震学者から度々警告が発せられており、いつどこで大地震が来てもおかしくないことは誰でもが認識していたと思われるが、企業経営者がどこまで地震リスクの影響を自覚し、どれほどの地震対策とりわけ耐震補強等のリスク軽減策（所謂リスクコントロール）を実施してきたのか…
下記事例1を比較すると日本企業と米国企業でかくもこのような差が生じてしまうのか残念でならない。4/13/2011年付日経新聞「ビール各社の被災拠点の状況と今後の稼働再開の見通し」によると、各社とも長期の事業中断を余儀なくされているようだ。（図1参照）

図１）「ビール各社　被災拠点状況と今後の稼働再開の見通し」

	K社		A社		S社	
工場（所在地）	仙台工場（仙台市）	取手工場（茨城県取手市）	福島工場（福島県本宮市）	茨城工場（茨城県守谷市）	仙台工場（宮城県名取市）	千葉工場（千葉県船橋市）
被害状況	貯蔵タンクの倒壊など		生産設備の破損など		生産設備の破損など	
稼働再開	9月以降に稼働再開	3月25日から一部再開	今夏をメドに再開を目指す	3月22日から一部再開	5～6月にも稼働再開	3月28日から一部再開

出典）日本経済新聞の記事（2011年4月13日掲載）をもとに銀泉リスクソリューションズ作成

上記に比べて、ノースリッジ地震（Los Angeles, USA）はマグニチュード6.7だったが、震源が14.6キロと極めて浅いところから、高速道路が崩壊するなど米国史上最も経済的損失の大きな地震となった。その、ノースリッジに近いところの高速道路沿いに、バドワイザーブランドで有名なA社の大工場がある。当該工場では、リスクコントロール（耐震診断/耐震補強）を5年間かけて行った直後（10月に終了した3ヶ月後）1994年1月18日に発生したノースリッジ地震で、下記の通り異例のスピードで事業再開し、巨額損失を免れた。

事例１）リスクコントロールによる損害額軽減事例（A社）

専門家によるロスアンゼルス工場の地震サーベイを実施し、その評価を基に1988年～1993年10月にかけて改修プログラムによる工事を実施　/　総実行費16億円（総新価格の1.3%）

↓

1994年1月18日　カリフォルニア・ノースリッジ地震発生（M6.7）

↓

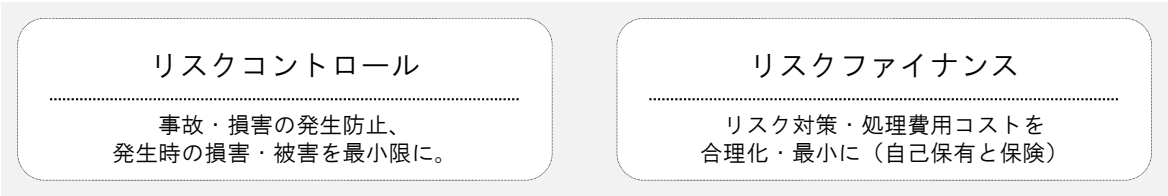
従業員死傷者：ゼロ　/　総被害額：30億円
4日後には業務再開、7日後にはフル操業が可能に。
回避された財物損害額＝200億円　回避された業務中断による損害額＝300億円

地震リスク軽減プログラムによって回避された総コスト＝500億円
地震による被害額についても、（PD/BI/CSL地震保険でカバー）

更にショックなのは何と「**フクシマは防げた可能性**」（4/20付朝日新聞）。福島第一原発の事故をめぐって、国際的な原子力安全の専門家16人がIAEA（国際原子力機関）に再発防止に向けて提出した声明文の中で、「**比較的コストのかからない改善をしていれば、完全に回避できた可能性がある**」と指摘している点だ。

リスクマネジメントの概念には、下図の通り「リスクコントロール」と「リスクファイナンス」の2つがある。（図２参照）

図２）リスクマネジメントについて

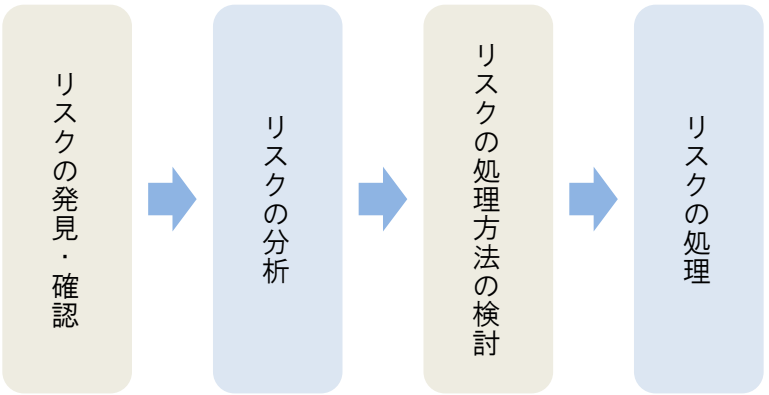


例えば、1981年以前の旧耐震建築の建物等については、地震保険に加入する前に、A社の様に「耐震診断」「耐震補強」を実施することは必須である。PL保険（生産物賠償責任保険）に加入する前には、取扱説明書/仕様書等の見直しおよび品質管理の徹底等を行った上で、また自動車保険で事故の多い場合には、安全講習/社員教育の実施および安全運転管理を強化するなど足元で対応できることもある。専門家のアドバイスを受けながら実施した方がより的確なリスクコントロールとなり、それを踏まえて保険加入すれば、リスクが軽減される分保険料も当然引き下げられることになり、経費削減と無駄の排除につながることになる。

保険に携わる者としても、ともすればつい保険を売りたいがために保険ありきでお客様に接しがちになり、お客様のリスク全体を俯瞰し、そのリスク処理において「リスクコントロール」の提案を失念しがちであること、保険はリスク処理において最終的な手段の一つであり、あらゆる損害に対して決してオールマイティでないことをお客様にしっかりとご説明し納得いただくこと、この際自戒したい。お客さまもすぐに言われたままの保険に加入するのではなく、先ずは「リスクコントロール」を考え、その対策をしっかりと講じた上で、正しいリスク・マネジメント・プロセス（図3参照）によって最適な保険に加入することをお薦めする次第です。

図３）「リスク・マネジメント・プロセス」

「リスク・マネジメント・プロセス」＝ 最も合理的で効果的なリスク対策・管理、財務処理。



① リスクの発見・確認
どんなリスクがあるのか、リスクの洗い出し作業。
（チェックリスト・フローチャート）

② リスクの分析
どんな事件が、どのように、どの位の頻度で、
どれほどの損害をもたらすのか。

③ リスク処理方法の検討
回避、軽減、移転、保有などの最適な処理方法の検討。

④ リスクの処理
保険の購入、物件売却、破棄、自家保険他。

弊社は、大震災からの立ち直りに向けて、みなさま方へ最適/最良な保険および危機管理対策
並びにリスクマネジメントの提供を通じ、日本の復興と社会への貢献を果たして参ります。